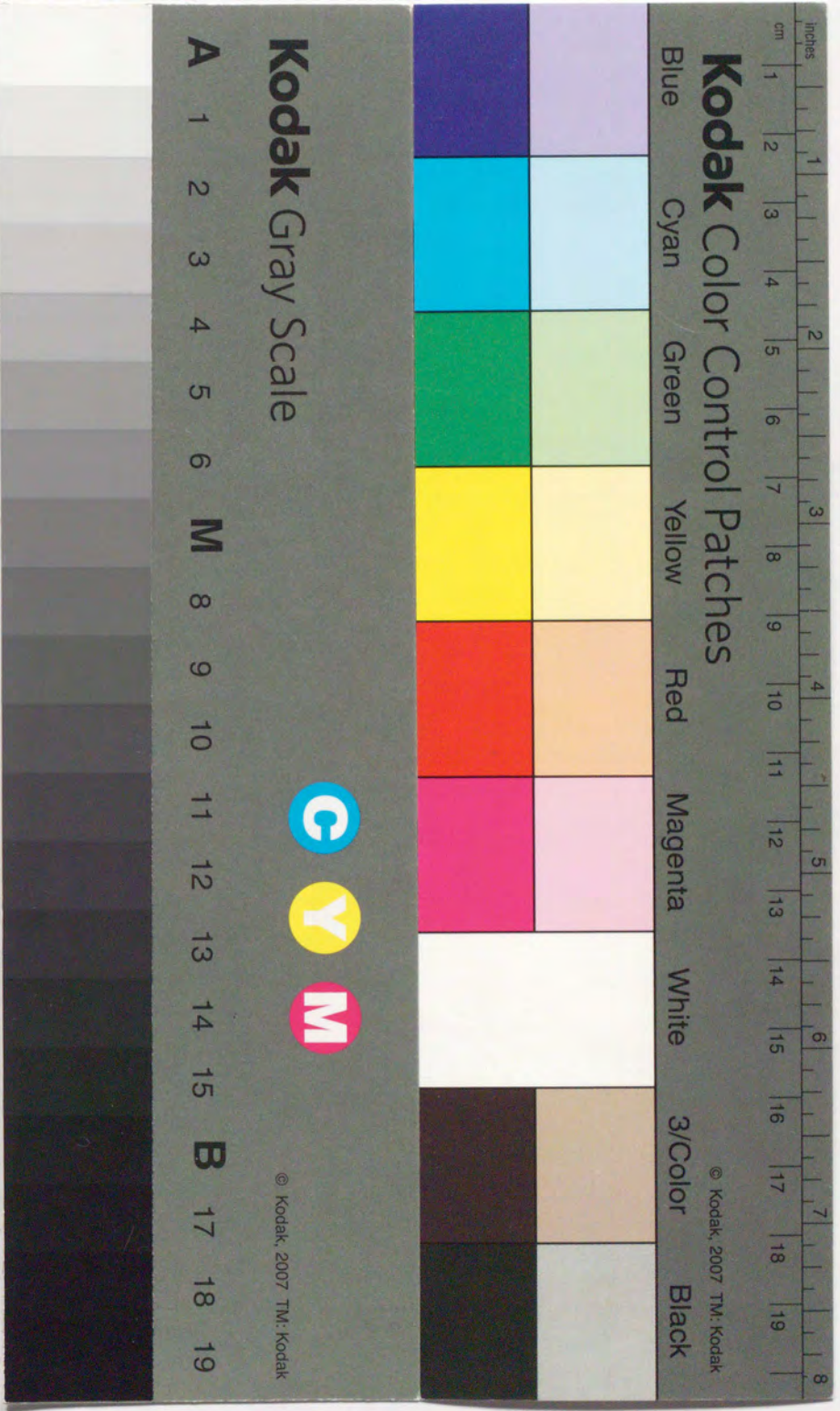






虞舜孝感動天
 漢文帝親嘗湯藥
 曾參啗指痛心
 閔損軍衣順母
 仲由為親負米
 董永賣身藝父
 劉子鹿乳奉親
 江革行傭供母
 陸績懷橘遺母
 唐夫人乳姑不怠
 孝心天感
 官收飽血
 尋母
 黃庭堅
 孟宗泣竹
 親溺器
 主祥臥冰求鯉
 郭巨為母埋兒
 楊香搗糞救父
 庾黔婁嘗糞憂心
 黃香扇枕溫衾
 姜詩湧泉浣衣
 老萊子戲綵娛親
 蔡順拾葚供親
 主哀聞雷泣墓
 丁蘭刻木祀親
 孟宗泣竹
 黃庭堅

古

十

Handwritten scribbles and marks.

余

孝感動天

虞舜ハ黄帝の後
 たり父と誓腰より
 幼なりて母を孝と
 後配を要して象と
 生む父の固執
 して後妻と
 三男の象と愛
 愛憎む多し



父母を恨む
 父母を順るん
 と成願ふ後竟
 大孝行の徳頭
 望む堯の禪と
 うけ天子となり
 あり曾童より
 在せと死歴山耕
 うへに象来りてその
 力を助け鳥来りて
 その勞を輔くこと
 孝に天を感ずる



漢文帝

親嘗

湯藥

漢の高祖の

中子に

天子の位は

即ちひて

御母溥

大夫人小孝

行とほしう

御母病は臥

夜衣冠と

解つて朝

の食とらめ

茶に至るまで

親嘗とらめ

進めり天子の

尊き身とて

おせをうみて

有るは孝心

なると



曾參

齒指

痛い心

曾子ハ孔子の

弟子あり

大孝行の人あり

故ハ孔子あの人

小孝經と授け

るハ一

曾參山へ薪を採

行りしや母の

親き人來りしハ母

りしとてしや、あど

ろろ小仕せハ曾參

早くかへしとあひて

自ら指と齒け多山中

在り曾子心痛ろろ

ろろろ急ぎて

ろろろ客ハ既ニ歸り

曾子その故を

ろろ孝子親と忘れ

ろろの誠と感

ろろろ



閔損

單衣

順母

閔損字子騫

孔子の弟子

十哲の一人也

孝行する人なり

幼少して母よりと

父後配を娶て

二人の児を生む母その

児を愛して閔損と



憎むと云ども

曾て恨み人孝故と

と傷みあると有

父の寒は堪がた

さふと云てその衣と

るれば片の穗とけり

を人言ふると大に怒りて

竟にその妻と云んとし時を閔損

とめて曰母の言やうと二人寒し母

在さば三子とも小寒うんと云めけま

父もその理小伏し母も愧悔て三子はうき愛

あけることなり





常々慕ふ
 父を養ふ
 孝の道
 悦びて
 貧乏を
 恥ぢず
 貧乏を
 常々
 慕ふ



仲由 爲親負米
 字と子路といふ孔門十哲の内より家貧にして
 人小確い米を乞ふて其の賃とりて両親を
 養ひたり父母没す後
 楚國の仕えて大功を
 せし富貴の身と
 かりて飲食
 衣服
 不立
 榮耀

董永 賣身 葬父

董永の後漢の人なり其母を
喪ひ父は事へ孝あり父死して
葬むるに便る日比催り主人の
許より錢十貫文と
借て長くその家の
下奴さんと約し
錢と得て父と葬
かて其家へ至らんとするに
路中美女と逢ひ遭強て
永が妻となり主人の家へ至

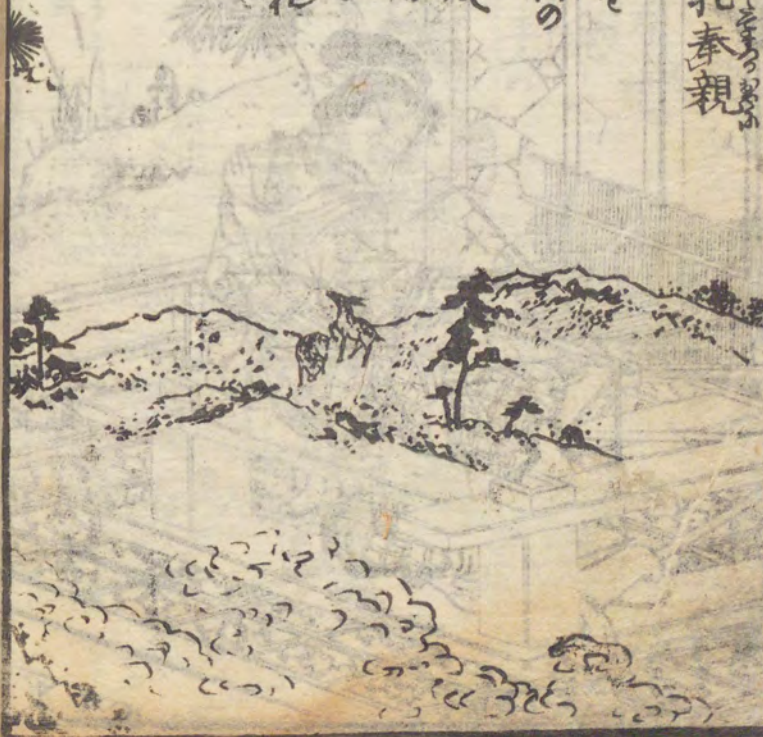


一月の間は三百
匹の絹と織て
その債と償ひ
我は天帝の織
女なり天帝
を孝
に
我とて債と
償
て去り



剡子 鹿乳奉親

剡子、其姓氏及時代を
詳くは相傳へず、孝行の
名を稱せり。父、母、年よりて
眼を患ふ。ひけは、医療
を乞ひけり。鹿の乳を用ひ
ざるに癒はじと云ふ。ある
ども殺さず鹿より乳を
索ひて飲まむ。鹿の
皮を割りて山中へゆき
鹿と交りて乳を索



めんを乞ふの時、獵人
來り射さんと欲
けり。剡子、驚き声と揚
てその実と告ぐ。う
けり。獵人、弓矢と
あせて通りぬる
と云ふ。然るに業を
誠心のより天の

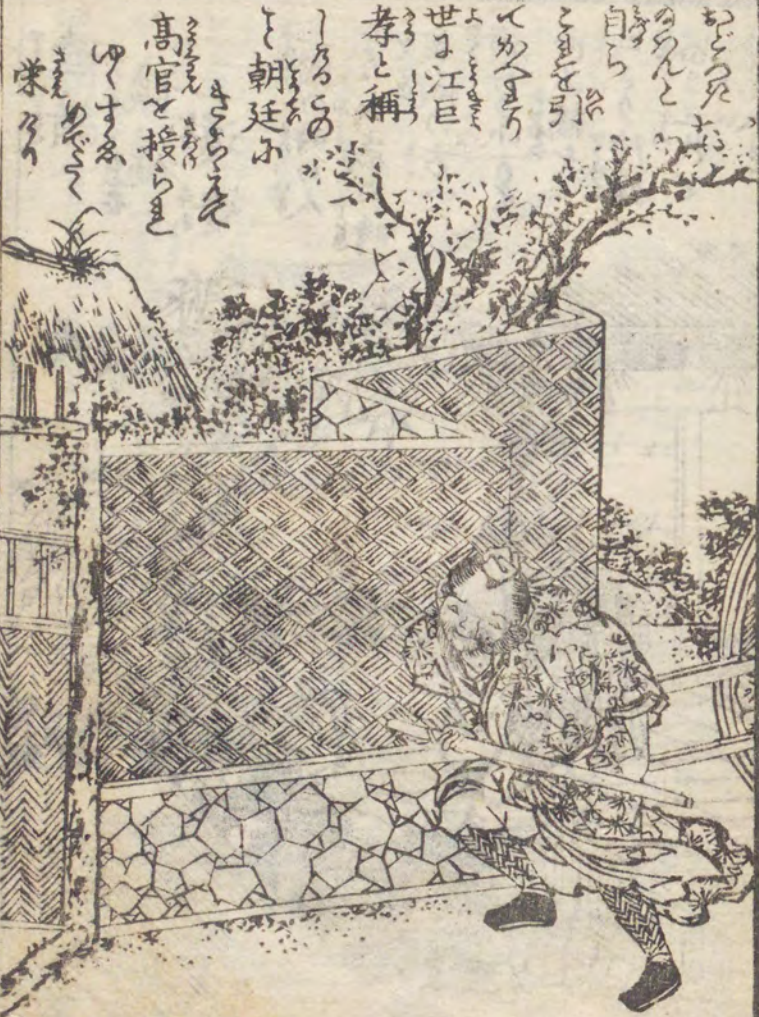
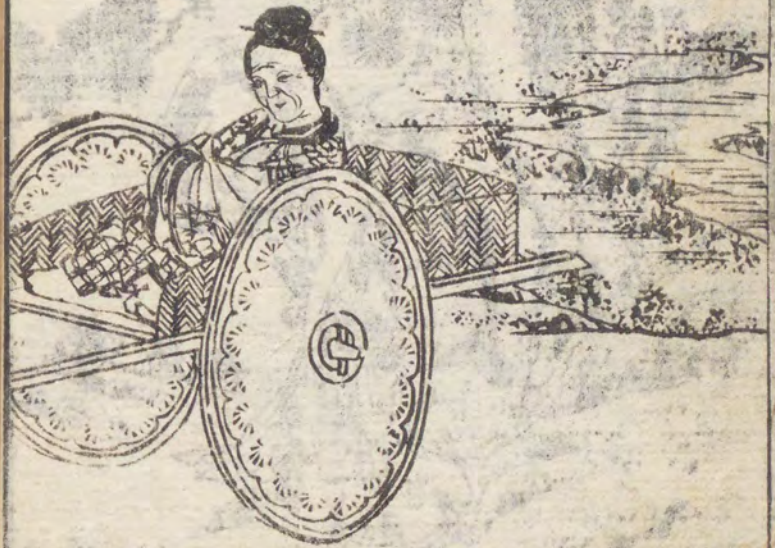


又そをりて
必死の鉄で
あぶる

江革

行僱供母

後漢の人なり世の乱れ
 わひて母を伴ひ他国に
 難と避る身ハ
 蹴赤裸うく人ハ
 僱ひて母と養ひ
 乃ちの後世治を
 故郷へかへる母と
 車に載せ
 牛馬
 曳か



世江巨
 孝と稱
 朝廷に
 高官と授け
 栄々

陸績

懷橘遺母

三國の時の人
なり六歳の時
袁術の方へ
行けり
橘を
出さず陸績
密に三枚を
懐に入と



歸るとき

腰に屈め

けり小地

小地

袁術をもて

尾籠のう

うんけきハ

陸績跪き

児あり

珍果とむけ

母小あさん



母小あさん為ると答けきハ満生感トけり

唐夫人

乳姑不忌

唐夫人唐の博陵の
崔南の人の妻なり姑の
長孫夫人は之を孝を法に
食麦心のするささる朝文
乳とて養ひる不無病
之を長壽を保ちる親族と
病小なりと云ふ



招きつゝ長生

唐夫人の恩なり
之を報ひて
死のいのちを憾
まは願く
子孫のまかり
此夫人の孝心を
まゐり行はゆ
繁栄なりと遺
言く失ふと云ふ



呉猛

蚊 飽

益

呉猛のつゝ

時の人いふを

あつて八歳ふと

孝の名世小

うその家

蚊帳のてをては

父母蚊



方々を

んを

赤

母の傍

父

父

父

父

父

父



王祥

卧求鲤

王群よひの代人あり

孝行之方

時生魚を食ふ

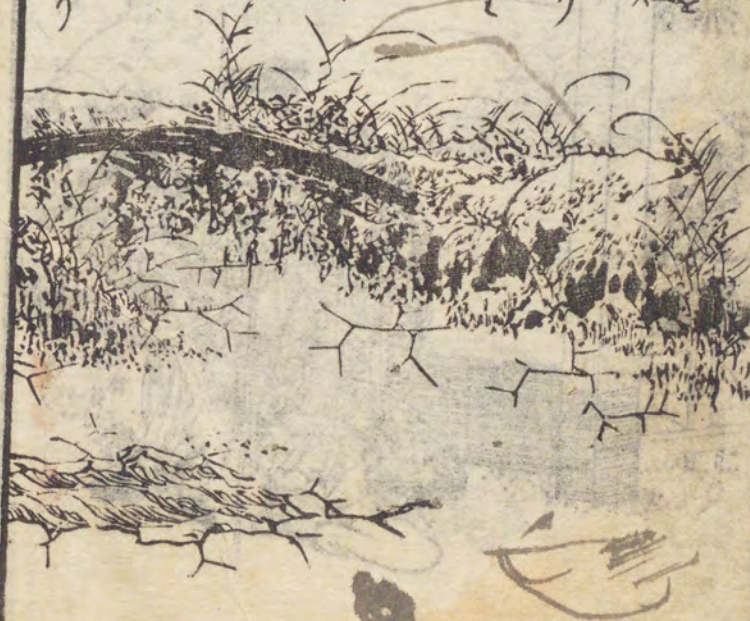
母の望はくふ比一由雲氣

時少江

魚をどる

孝の心は人の子の心

市禰と
あり



氷の上ふ階々心中

魚を待つとを
これ

新ひける水

王祥が跡を形

は角て二厘の
鯉を喰ふと云う

懐びのち

久々々母ふ

進め

孝の徳

天を思ふも
断くのどろ

真



郭巨

為母埋子

後漢の人なり家
貧として老母を
養ふその食の
不足をんを
悲む老母三歳
の孫を養ふと
その食とてうち
や郭巨夫婦と
うはきふ掘り



十日

その見を埋む

金六金

天孝子

郭巨ふ賜ふと

いふ文あり

ふくむと

家富す

孝子

はと



撻虎救

交

揚香ハ魯の

國子揚

豊の女児

幼
孝
心

深々父子

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

離るる



孝の

わさね
ちよ
父と母
之の
子

大なる

虎とぞりて

父食ふ

換香者

虎の尊うし

多
ち
助け

根谷

さしものあはれ

新



方放之迹

せうきう

楊香

考心

世

三

...

[illegible]

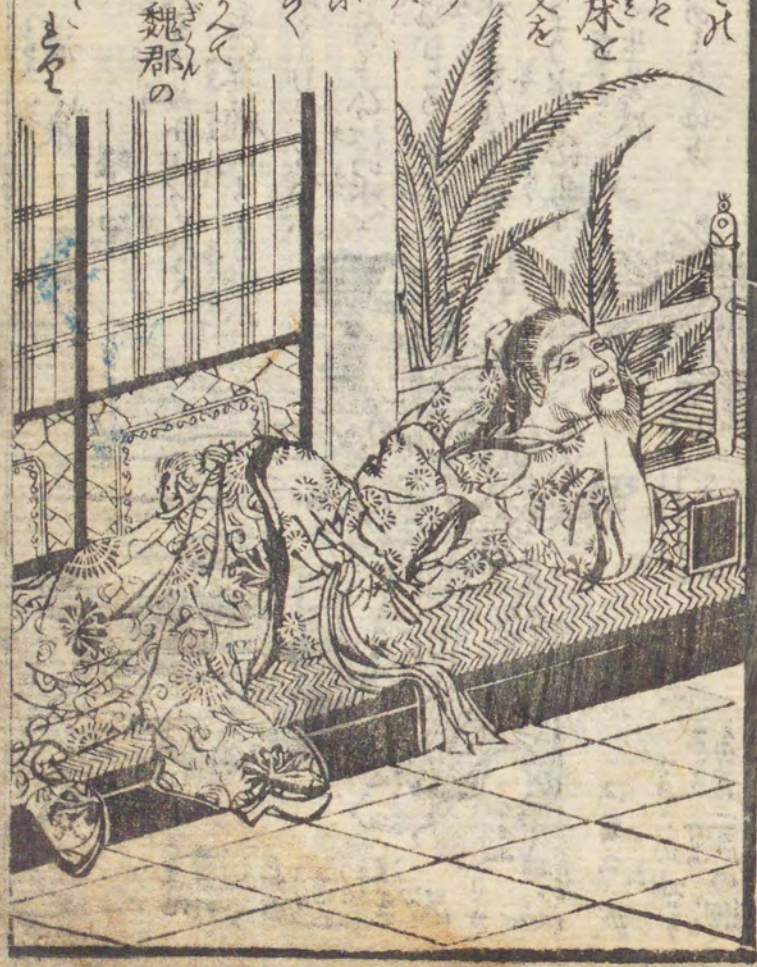
黄香

扇枕温衾

後漢の黄香字は文強
経曲道学を究め文章を
能するを以てその名を
九歳の時父母をこころみ
父は仕えをなすを
家貧くめつみ
ふけまへ自ら力をこめて
夏の暑きころは
床をわき枕を



清く冬れ
室を暖む
冬はく床を
わきめて父を
暖む
かくれ
孝行世に
かよふ
朝廷よつて
尚書令魏郡の
太守に
も



七五七

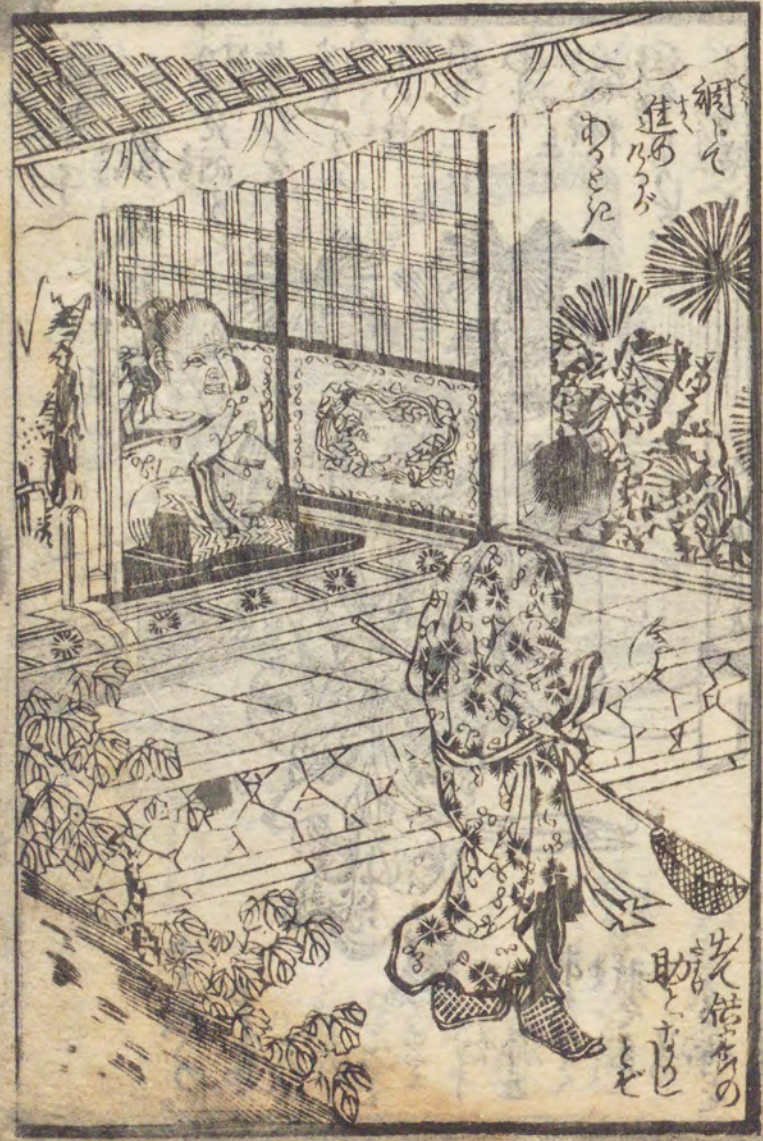
姜詩 湧泉 躍鯉

後漢の入りあり母ふけりてんく
至孝ありその妻龐氏もすく姑ふ
孝のふけりけるありあふ
母井の水とさきひ江の水と
のむとて好むこの家近く小
清き江の水なきにあり母
龐氏遠きより水と汲き
すめはく生魚れ
鯉とよのこるゆゑ



ふ異なり
すこの水
毎旦二匹の鯉
江の水
清き
母の
家
の
水

綱
進め
あつた



助
と
と
と

老萊子

戲絲娛親

いつれ時より
孝めを
はくはる
その身
脱お七に
あま
父無様
な金りり
ふか老衰と



▲まゐの
めい何
めい
めい
あをびく
整年
方侍を

父母の前

あまのこ
そのと
そのれ
老を
かろ
ろを
あひ
こ
小児
やう
衣服と名



父無様
とま
映さだわ
小児の
ま
父の
と
なりき
と

供_く親_{しん}

▲色の赤
あつと
ひんまへ
あつと
ひんまへ
あつと
ひんまへ
あつと
ひんまへ



昔々
 去々
 とん





丁蘭

刻木

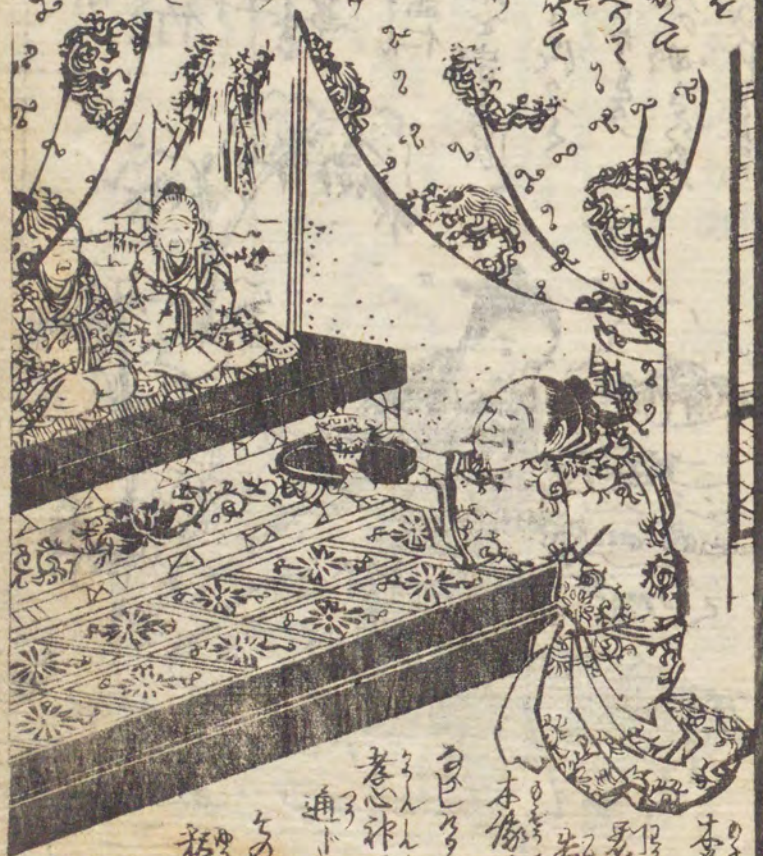
祀親

火をいふと喪ひ
思慕ありその
木像を洗う
お守り仕え
その隣あり
張叔子ふと
後今日丁蘭が
前日の間あり
本像をのり
且その杖を



丁蘭
お守り仕え
その隣あり

うめかそ
丁蘭がうめ
この事
大いなり
張叔子
お守り仕え
その隣あり
丁蘭を
かめ



本像を
お守り仕え
その隣あり
丁蘭を
かめ

孟宗

泣竹

生事

呉の孟仁

おの名を宗といふ

孫皓は泣く

司空となす

おの人の母を泣か

賢女ありてその



おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた

おのふあつた



黄庭堅

滌親

溺器

自ら山谷

道人といふもの

人文章をよ

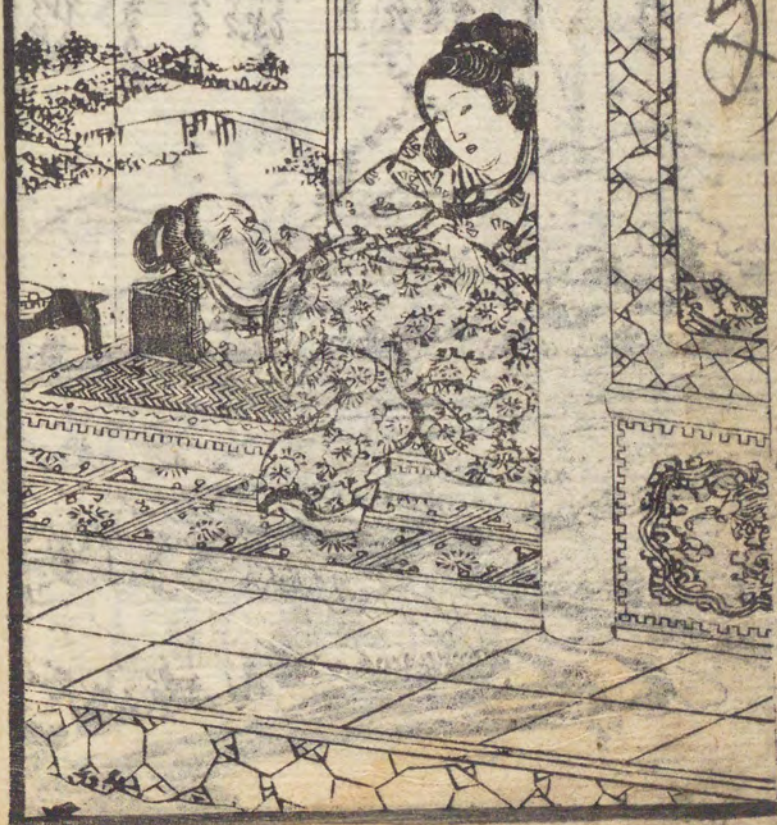
詩は長ト天下の

文宗なるに因て

官をく家

富々ある所不

ちの



親小孝心に海に

病ありて

弟をさぐれば

賞をうけ

進む

娼女も

ありけり

自ら

うの

除き

城あり

孝行の

うり



松亭金水校合

靜齋英一畫圖

南傳馬町三丁目

東都書林

三河屋善兵衛藏版



魚

七
月

